

県指定文化財洋学校教師館保存修理の検討事項

H30.1.30

●現状-復原図（案）【資料 1】

●仕様・資料調査について

①古写真・図面比較

- ・明治4年当時写真 古写真 1- 【資料 2】
古写真 2- 【資料 3.4】
- ・昭和7年？ 赤十字記念館 【資料 5】
皇族幸写真か？
- ・昭和35年調査時写真 【資料 6】
- ・昭和35年調査時図面 【資料 7】（熊本市図書館所蔵）
- ・昭和35-45年移築前後建物変遷 【資料 8.9】

②一階の左奥の部屋が2分割される。【資料 10】

バスルームか（風呂・便所）。同所の後の間は基礎部に他所より大きな換気口がある。少なくとも昭和35年の図面にある（くみ取り・風呂用）

③・二階の間仕切・部屋割りの改変と痕跡の裏付け 【資料 11】

昭和45年移築前の室内写真においては上下窓が一つ余計に存在、ベランダテラス部分が部屋に取り込まれている。カーテンロッドも当建物オリジナル。昭和35年図面から推定すると上下窓が二つ、当初と同じように作られていたと見られる。

また壁を抜きすぎて構造上きわめて不安定（ボルトで小屋から釣っている痕跡がある）になっていた。

④床仕上について 【資料 12】

リノリウム（1860年代に発明され、日本では1919年製造）

当初床板（和釘痕あり）に幅900mm、リノリウム端を押さえた和釘が残り、板表面には、わずかながら仕様痕、擦れ跡が残る。

洋釘は明治13年には一般建築に輸入釘が大量に使用されている（製造は明治30年）。

熊本市内では妙解寺唐門で明治19年（輸入釘）を使用

⑤・天井：漆喰天井（現状は木摺・ラスモルタル）か板天井・紙貼天井か【資料 13】

長崎の幕末～明治初期の洋館においては紙貼り天井が多く、漆喰天井は明治中

期以降のようである。昭和 45 年移築前は板張天井であった。屋根裏に野地として転用されていた天井板は丸鋸製材ですべて昭和 7 年材であった（和釘痕はない）。

柱上部の痕跡、梁に残る天井釣木などの釘痕跡を調査中であるが、梁に残る和釘には長さ 60～90mm 程度のものばかりで漆喰天井のような重量物に対応した吊木のものと見られる痕跡はない。

⑥左官・壁【資料 14】

明治の古写真【資料 2】では外部は鼠漆喰

（グラバー邸の開口部に同様な仕上【資料 18】）

大壁になるが土壁が厚すぎる 151 mm（現状は外部、木摺・ラスモルタル・プラスター仕上とする）。壁小舞ではないかもしれない（報告書に小舞間渡穴と記載あるが痕跡はない）

昭和 45 年移築の際には、貫の両側に縦に竹小舞を取りつけさらに横小舞を搔いている。貫の面は中空になるが土が乾きにくなり良くない仕様である。小舞も搔きにくい。

木摺の可能性について、柱面に木摺を打った明確な釘跡はない。しかしながら上下の頭繫梁・胴差には当初とみられる縦胴縁の仕口が、すべての壁位置に残っているほか、移築前は木摺であったと報告書にあり移築前写真にも縦胴縁木摺が露出している写真が見える。

⑦塗装・塗装仕上【資料 15】

内部の柱・幅木・建具枠・建具・階段・手摺はワニス塗りであった

一方外部に面する柱・テラス手摺り・建具枠・鎧戸等はすべてペンキ塗であった

内部ワニス塗は階段部を除き昭和 7 年移築時にペンキ塗りとし、昭和 45 年移築時も同じ

⑧建具【資料 16.17】

板扉・開戸・欄間ガラス窓・上下窓に関してはすべて当初材を確認した。ガラス窓も当初であるがパテを使用は確認できない。木製三角縁・釘打が当初かは調査中。

しかしながら外部の鎧戸についてはすべて失われている。特に外部の鎧戸建具の羽の割付が現状と復原と古写真現物では異なっている。また資料保存されていた鎧戸については昭和 45 年移築前時の写真からも確認できるが、割付は近いが羽の幅と取付勾配が明らかに違っている。ガラス窓も当初であるが、鎧戸については移築された物産館当時に取り外され、内側の窓を鎧戸位置に取り付けた。

ただし少なくとも左側面については昭和 45 年移築前まで残されていた事がわか

る。

⑨暖炉【資料 4】

古写真において右側にも煙突が確認できる。

位置と大きさ形状、反対側復原するかどうか（古写真では左右対称）

⑩使用木材の樹種鑑定【資料 19】

分析結果においてはすべて日本国内（熊本県）において入手できる材料であり、報告書で記述のある「大工・材料すべて長崎から持ってきた」、床板にカラマツといった輸入材の使用については現時点では確認できなかった

→調査・検証が完全に終了するのは3月前半

不明な点も含めどう設計に反映させるか

二者択一できるよう積算を進める（仕様・単価の変更のみ）

●構造補強について

A案：合板一重、土壁存置

B案：合板二重、木摺漆喰、一部鉄骨補強

C案：合板一重、鉄骨補強分散